



012 青い鳥保育園えんちょうだより

R6年度 笑顔いっぱい



令和6年11月27日 NO11 文責 佐伯



もうすぐ12月。園内の飾りも少しづつクリスマスモードになってきています。

「サンタさん」の話題も、子どもたちのたどたどしい言葉の中に出てくるようになりました。お店の中も、サンタさんの音楽が流れていたり、否応なしにインプットされていきますね。きっとサンタさんは大忙し。プレゼント探しに走り回っていることでしょう。がんばれ〜！！12月は、「クリスマス会」「警察署訪問（園外探検）」・「お餅つき」など行事もいっぱいです。園児みんな楽しんでいきたいと思っていますので、体調管理をよろしくお願いいたしますね。今、「手足口病」の猛威が止まりません。手洗いうがいしか予防法がありませんので頑張りましょう。たくさん食べて休息を十分とってくださいね。お伝えしたいことがいっぱい、文字の多い園長だよりになってしまいました。ごめんなさい(💧)

「ありがとう」の子育てを

こどもを保育園に預けて働くある保護者さんが、お迎えが遅くなってしまったことを「ごめんね」と謝っている姿を目にしました。

きっと、暗くなるまで待っていた我が子に寂しい思いをさせてしまったという気持ちになっていたのではないのでしょうか？やさしいママですね。

でも、そんな時の「ごめんね」の言葉を「ずっと待っていてくれたの？ありがとう！」の言葉にかえてみたらどうでしょうか？

「ありがとう」の言葉は、頑張って待てたことへの誉め言葉（プラスの言葉）となります。

人は、マイナスの言葉よりもプラスの言葉をかけてもらった方が嬉しい気持ちになりますよね。

テレビのお菓子のコマーシャルの中で、男の子が「ママはいつもごめんねばかり…。ごめんねじゃないよ！」とっているものがありました。その通りだなと思い、つい「ごめんね」と言ってしまう私も反省しています。

職場でも、家庭でも「ごめんね」（自分を責めるマイナスの言葉）より「ありがとう」（感謝や相手への誉め言葉となります）をたくさん使って気持ちをプラスにしていけると良いですね。

いつも頑張っている保護者の皆さん、本当にありがとう！！

先日ある研修会の中で比較認知発達科学の京都大学大学院教授明和政子先生が、こんなことを言っていました。「子どもたちの生涯にわたる心身の健康の土台は幼児期に作られる」と……。私はもう人生後半世代。でもまだ間に合うとばかりに心・身体の健康に留意し生きていますが、それでは遅いんですって。ショック！！

小さい時の良い経験も・悪い経験も、脳や身体への刺激が将来に大きく影響するのだそうです。親だけが家族が頑張るだけではなく、**社会が子どもたちをみんなで育てていく事が大切**なのだそうです。

幼児期の体験や生活習慣の中で、身体や心の健康が決まってしまうと聞いて本当に驚いたとともに、今まさにこの仕事をしている私たちがとても大事な役割を担っているんだと改めて実感しました。

皆さんの力になれるように、これからも努力を続けていかなくはと思った学びの時間でした。

幼児期はあっという間に過ぎていきます。大切な子どもたちのために大切に育てていきましょうね。私たち職員もお手伝いします。